

年次報告書2020



特定非営利活動法人

自立生活センターSTEPえどがわ

もくじ
目次

01 はじめに 3

02 ^{ねんどじぎょうほうこく}
2020 年度事業報告

① ^{じりつしえん}
自立支援

- 1) ピア・カウンセリング 4
- 2) ^{じりつせいかつ}自立生活プログラム 5
- 3) ^{たいけん}体験ルーム 6
- 4) ^{そうだん}よろず相談 6
- 5) ^{こべつそうだん}個別相談
 - ^{しょうかい}ケース紹介① ^{いりようてき}「医療的ケア児支援」^{じしえん} 7
 - ^{しょうかい}ケース紹介② ^{ちいきいこうしえん}「地域移行支援」 8
- 6) ^{じひ}自費による^{かいじょはけん}介助派遣
 - ^{えどがわく}「江戸川区の^{かいごほしょう}介護保障を^{かくりつ}確立する会^{かい}（と^{わい}Yさん）」 9

② ^{けんりようご}権利擁護・^{ふぎゅうけいはつ}普及啓発

- 1) ^{じょうほうほしょう}情報保障
 - ^{すてつぷ}STEP えどがわの^{じょうほうほしょう}情報保障に関する^{かん}取組^{とく}み 11
- 2) イベント
 - ① ^{えいがじょうえいかい}オンライン映画上映会 14
 - ② ^{すてつぷ}STEP の^{ぼうさいいしきこうじょう}防災意識向上の^{とりく}取組^み 16

3) ヘルパー研修会	けんしゅうかい	18
4) 会報・ホームページ運営	かいほう うんえい	19
5) 外部協力	がいぶきょうりよく	20
1. 当事者参画 1	とうじしゃさんかく	
第6期江戸川区障害福祉計画策定委員になってみて	だい きえどがわくしょうがいふくしけいかくさくていいいん	23
2. 当事者参画 2	とうじしゃさんかく	
赤羽国土交通大臣による東京メトロ霞ヶ関駅視察レポート	あかばこくどうこうつうだいじんとうきょうかすみ が せきえきしさつ	26

③ 障害福祉・介護保険

1) 利用者数・ヘルパー登録数・派遣時間数	りようしゃすう とうろくすう はけんじかんすう	28
2) 利用者さん紹介	りようしゃ しょうかい	
1. 「阿部さん」	あべ	28
2. 「司代さん」	しだい	29
3) 「ヘルパーさんたちのあそびば」		
1. 「野原さん」	のはら	33
2. 「丹治さん」	たんじ	34

④ 養成研修

03	しんかいいんせいど 新会員制度「ダンスなくし隊」	たい 37
----	-----------------------------	----------

01

はじめに

じむきょくちょう つちや みねかず
事務局長 土屋 峰和

2020 年は思いもよらない年となつてしましました。

これまで経験したしたことのない感染症対策。利用者、ヘルパー、そしてスタッフを感染させないために様々な取り組みに挑戦してきた年となったように感じます。STEP えどがわでは、周りに感染させない、そして自分自身もしないために多くの対策を講じてきました。しかしそれらの対策は本当にそれで正しいのか。正直なところ不安も感じていました。

そんな時、「ふんわりチャンポン大作戦」という福祉施設向けの感染対策をレクチャーしているという事業を目にしました。これは、ジャパンハートさんと連携をして、風に立つライオン基金さんが実施しているもので、感染症対策の専門家の医師や看護師さんに実際に来てもらって、感染対策の基本からその現場に合った対策等を直接お聞きできるというものです。

ふんわりチャンポンでは、必ず押さえないといけないポイントを、その理由も含め教えて頂くとともに、省いていいところは省きましょうというアドバイスも頂くことができました。専門家に直接聞けたことによる安心感と、これまでの対策に大きな問題はなかったという自信につながりました。

新型コロナウイルスの影響は大きく、STEP えどがわでも様々な事業に対し、中止等を余儀なくされたものも少なくありません。しかしながら、そんな中でも皆でアイデアを出し、工夫をしながら実現できた事業も多くあります。対面が大きく制限される中でも、オンライン会議ツールを使った会議や研修、イベント等も企画・実施することができました。自立生活センターとして欠かすことのできない、個別相談や ILP、新規自立者支援等も継続できています。

今年度の活動としては、昨年度の活動を継続もしくはバージョンアップし、取り組めなかった課題にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。これまでの個別支援をはじめ、江戸川区の動きにも注視しつつ公立小中学校のバリアフリー化や、STEP と有志で取り組んでいる EMINBO(江戸川みんなの防災プロジェクト)等にも力を入れていきます。

また、総合支援法、差別解消法、バリアフリー法等の動きにも注視し、情報共有等態勢を整えていきたいと思ひます。

未だにコロナ収束の目途は立たない状況ではありますが、昨年培われた経験を活かし、いかなる状況下でも着実に進んで参りたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

02

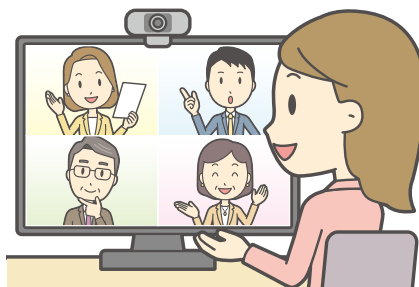
ねんどじぎょうほうこく
2020 年度事業報告

① じりつしえん
自立支援

1) ピア・カウンセリング講座：自分の気持ちに向き合う時間

2020 年度は、もともと講座は実施する予定はなく、オンゴーイング（継続講座）のみ実施予定でした。ですが、コロナウィルスの感染拡大で対面による行動が制限され、開催できずにいました。12 月、全国自立生活協議会（JIL）の全国セミナーで、ピア・カウンセリング委員会がコロナ禍における講座開催方法の模索、自前で飛沫防止幕を作ったり、オンラインで開催したりという報告を聞いて、元気をもらい STEP えどがわもオンラインで開催することにしました。

< 2020 年 4 月～2021 年 3 月までの実施内容 >		
こうざめい 講座名	じっしび 実施日	さんかにんずう 参加人数
オンゴーイング講座	2021 年 3 月 21 日（水）	4 名



2) 自立生活プログラム (ILP) : 一人暮らしに必要な知識と経験の場の提供

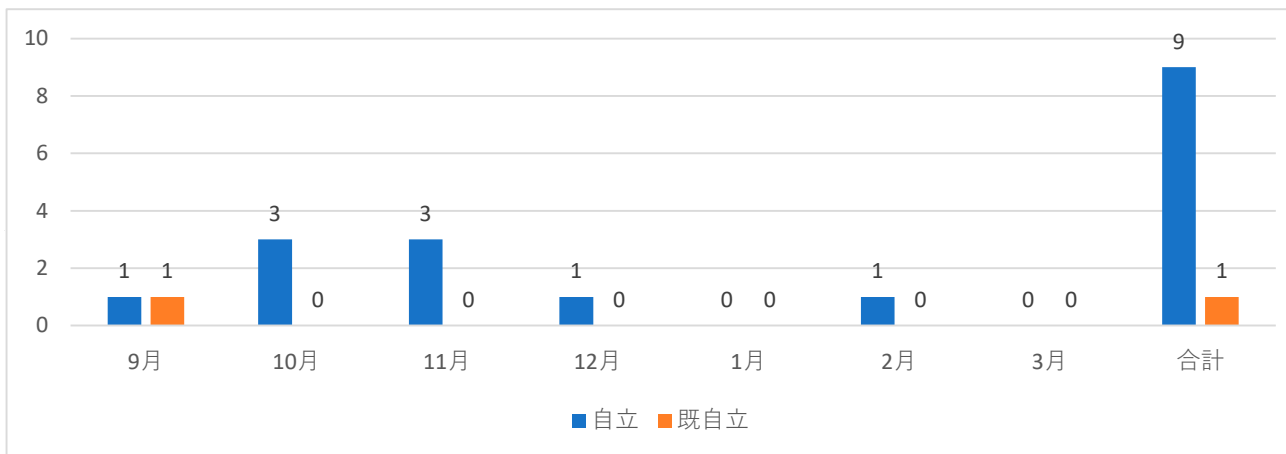
グループプログラムはしばらく行っていません。これから希望する人への個別プログラム、すでに一人暮らしをしていて継続するために必要なサポートプログラムが実施されています。こちらコロナ禍において、対面による個別プログラムを停止せざるを得なくなった結果、それぞれメンタルの調子が悪くなっていきました。目標や日常が突然奪われ、いつ元に戻るのかわからない不安を一人では解決するのは難しいことはすぐにわかりました。私達は、自立生活プログラムは不要不急ではなく、障害を持ち一人暮らしを模索する私達にとって必要不可欠なものと判断し、すぐに対面によるものを再開した人、まずはオンラインでじっくり話を聞きながら、コロナ感染状況をみながら対面を復活させた人などそれぞれに合わせて、再開していきました。

< 2020 年 4 月 ~ 2021 年 3 月までの実施内容 >			
	利用人数	頻度	内容
定期的な個別 ILP	3 人	月に 1 回 ~ 4 回	- 一人暮らしをするために必要なこと (自分のこと / 障害について知る、伝える、介助者との関係を考える、制度を知る等) - 体験ルーム利用のための準備と振り返り - 一人暮らしを継続するために必要なサポートの実施
都度の個別 ILP	1 人	年に数回	- 金銭管理の相談 - 都営住宅申込の方法の相談など

3) 体験ルーム：一人暮らしの体験の場

体験ルームもコロナ禍においては、4月～8月まで使用停止をしていましたが、自立生活プログラムの再開に合わせ、利用前後は最低3日間は間を空けることとし、使用を再開しました。親ではなく、介助者による生活の練習をするために介助者を連れて利用する人、STEPの介助者を自費で利用する人、一人で試したい人それぞれの利用がありました。既自立者の滞在の為の利用は、コロナ禍もあり、例年に比べ激減しました。

< 2020年4月～2021年3月までの利用実績 >



- ・ 自立生活のための利用 3名 (1回の平均利用日数 3日)
- ・ 既自立者の滞在のための利用 1人

4) よろず相談：なんでも電話相談

STEP えどがわは、障害にまつわる相談なら、どんな相談でもまず聞きます。障害当事者スタッフも介助コーディネータースタッフも関係なく、対応します。コロナ禍で事務所を閉鎖せざるを得なくなった時、事務対応用の携帯電話を介助コーディネータースタッフが持つことになり、相談用はSkype電話を使って対応することになりました。ですが、電話はできるけれどもオンラインは難しいという人にはSkype電話は利用できず、思うようなサポートができない事態が続きました。当事者スタッフが事務所にいる必要性を感じていたので、事務所内の感染防止対策が整った6月中旬より、よろず相談をメインに対応するべく、障害当事者スタッフの当番制を始めました。コロナ禍が終息するまでは、毎日誰かは相談対応ができる体制が続きます。

5) 個別相談

多くのよろず相談は、単純な問合せも含め、その場で終わることも多いですが、具体的なサポートが必要ではないかと判断されたときは、個別に時間を取って対応をしています。それは、個別 ILP に発展したり、STEP の権利擁護活動に発展したりしています。

ケース紹介①

「医療的ケア児支援」(記：井家上裕)

山本瑛太君と初めて会ったのは昨年の6月。瑛太君が3歳の誕生日を迎えるほんの少し前でした。瑛太君は重度の脳性まひがあり、人工呼吸器やたんの吸引、胃ろうでの食事といった医療的ケアが必要で

詳しくお話を聞きに山本瑛太君のご自宅に伺った時の事です。「家族で江戸川区に引越して来たが医療的ケアが出来るヘルパー派遣事業所が見つからない」お母様はそう話すと江戸川区から渡された医療的ケアが出来る事業所リ



ストを見せられました。リストにある十数件の事業所は、過去には医療的ケアに関わっていたが今はやってい

ない、と言う事業所も多く、STEP えどがわに断られたらもう当てがないとの事でした。江戸川区で医療的ケアが出来る事業所が全く無いという現状を痛感しました。

”どんなに重い障害があっても自分らしく地域で暮らせる社会”を目指すSTEP えどがわにとって、なんとか力になれないかとSTEP 全体で考え、全力で支援して行こうと一致団結し支援して行く事を決めました。

また、介助者募集チラシをつくってビラ配りする提案に興味を持ってくれたり、瑛太君の就学先についてもインクルーシブ教育の必要性をわかってくれたり、と初めてお話しさせてもらった時からご両親の考えとSTEP えどがわの活動は一致する部分が多いなあ、と感じていました。医療的ケア児を支援する法案成立に向けての署名活動など、精力的に活動するご両親にいつも刺激を受けています。

瑛太君に関わってくれる相談支援専門員さんや訪問看護師さん、訪問診療の先生等、志しを持つ素敵な方々の協力もあり、支援環境が整ってきました。

「瑛太君を中心に社会が変わっていく！」
そんな風に思える程、瑛太君の周りには
大きな志しを持つ方達が集まってきてお
ります。

これからも瑛太君と共に困難を乗り越
え、一緒にSTEP えどがわも成長してい
けるよう頑張っていきたいです。

.....
しょうかい
ケース紹介②
.....
くはないじぎょうしょ れんけい ちいきいこうしえん
「区内他事業所と連携した地域移行支援」
(記：曾田夏記)

「施設から出て、江戸川区に戻って来た
い」というMさんがSTEP えどがわに
相談に来てくれたのは、2020年8月の
こと。

「地域での一人暮らしを希望しても、
生活保護のケースワーカー等に『修業が
必要』などと言われ、施設を出してもら
えない」「このまま死ぬまで施設にいろ
ことになるのではないかと不安になる・・・」
等のSさんの言葉に、憤りを感じ、何と
か力になりたいなと思いました。

同時に、「Mさんの地域移行を進め
るには、STEP えどがわだけではダメ
だ」ということも感じました。STEP
では身体障害のある仲間の自立支援・
地域移行の経験はありますが、Mさ
んのように精神障害のある仲間の
地域移行支援は経験が乏しかったからで
す。そこで、江戸川区内、いや、全国的

にも精神障害者の地域移行に素晴らしい
実績をもつ区内事業所の「くらふと」さ
んと連携し、Mさんの地域移行を支援し
ていくことにしました。

私自身、自立生活センターとして
「地域移行」に以前から関心はありまし
た。でも、Mさんとの出会いを通じて、
施設関係者やケースワーカーから受け
る「ひどい」言葉の数々に一緒に怒り、
精神障害のある仲間たちが受けている
偏見を肌で感じ、くらふとさんを通じて
「地域移行」に必要な地域の資源につい
て学ばせていただきました。

Mさんの支援には、他事業所であ
る「くらふと」さんはじめ、Mさんと同
じ施設にいて今は地域生活をしている
大切な友人のKさん、STEPでは今村
さん、コーディネーターの井家上智子さ
んと密に連絡をとりながら、チームで進
めてきました。誰にでも優しく、我慢強
く地域移行を目指すMさんのまわりに、
自然と応援団が増えていったように思い
ます。

Mさんは、2021年7月現在
「地域移行支援」の利用申請が終わり、
これから本格的に江戸川区での地域生活
に向けた準備がはじまります。江戸川区
にMさんが戻ってこられたら、応援団
のみなさんで祝いし、STEPにも新た
な仲間としてぜひ遊びに来て欲しいなと
思っています。これからもみんなで頑張
りましょう！

6) 自費による介護派遣

ヘルパーを使って在宅生活を継続するには、居宅介護または重度訪問介護という障害福祉サービスの支給決定が欠かせません。ですが、長時間介護が必要な人ほど、本当に必要な希望する時間数が支給決定されることはほとんどありません。STEP えどがわは、支給決定がされず不足する介護時間や障害福祉サービスで認められていないけれども障害者の生活にとって必要不可欠とされる事柄に必要な介護派遣について、自費による介護派遣を行っています。

りよう にんずう 利用した人数	10 人
はけんじかんすう 派遣時間数	315 時間

「江戸川区の介護保障を確立する会」
(記：蛭川涼子)

江戸川区では長く 24 時間の介護時間が認められた人はなく、ALS や全身性脳性麻痺、重度知的障害など、長時間介護が必要な人の介護は、事業所がボランティアで行ったり、利用者が自費による負担をして補うしかありませんでした。

STEP えどがわは、7 年前 (2013 年)、施設を出て江戸川区で一人暮らしすることを望む全身性脳性麻痺の Y さんに出会い、地域移行の協力を始めました。

2 年後、自立生活プログラム、体験ルームでの経験を経て、アパートが見つかったことを契機に一人暮らしを開始す

ることになりました。在宅生活開始にあたり、身体介護からコミュニケーション支援まで 24 時間の重度訪問介護サービスが必要であることの申請を江戸川区にしましたが、17 時間しか認められず、以来、不足する介護時間を STEP えどがわは負担してきました。江戸川区とは毎年交渉していましたが、17 時間以上は全く認められない状態が続きました。

STEP には「24 時間介護が必要な身体状況にもかかわらず、支給決定がされない」という相談は他にも寄せられていたので、そうした人たちと協力し、2017 年夏、「江戸川区の介護保障を確立する会」を立ち上げました。

介護保障に精通した 11 名の弁護士とともに集団交渉を江戸川区と行った結果、

2019年3月、ALSや重度知的障害の仲間には24時間介護が認められました。ですが、全身性脳性麻痺のYさんには主治医の協力が得られないなどの困難があり、支給決定が遅れて行きました。最終的に2020年7月、21時間という時間しか認められませんでした。

24時間の支給決定がされなかった一番の原因は、医療的ケアがあるかないかだったそうです。医療的ケアの必要性がない脳性麻痺者にとって、事業所の負担ありきでしか重度障害者の在宅生活が成り立たないという現実は、到底受け入れることはできないため、これからも話し合いは続く予定です。

※2020年度STEPえどがわがサポートしたYさんの不足する介助時間数…1041時間

「江戸川区の介護保障を確立する会」の活動につきましては会のホームページをご参照ください。

江戸川区 確立する会

検索



障害支援も 介護保険も これ1台

訪問介護のためのスケジュール管理ソフト



クラウドでシフト管理

ヘルパーアシストはASP型だから設置が手軽。すぐに、どこからでも・何人でも利用が可能です。急な変更も、毎日の調整も、ラクラク調整！



シフト情報を自動的にメール

毎日のシフトは勿論、変更やキャンセルもメールでお知らせ。うっかり聞き間違い・言い忘れ！そんな連絡ミスをなくすお手伝いをします。



お給料もワンクリックで計算

面倒な毎月の時給計算も、シフト実績から自動集計・自動計算が可能です。サービスごとの時給設定・介護保険の単発給与にも対応！

シンプルな料金形態
ヘルパー1名につき

800円(税別)

※更新料・解約料
一切なし

パソコン初心者さんも安心！ サポート無料！！

HelperAssist

ヘルパーアシスト

検索

【ヘルパーアシスト】シリーズ スケジュール管理ソフト

有限会社ミッツコミュニケーションズ 東京都江戸川区瑞江2-6-11 プレステージ瑞江3F

TEL: 03-5636-6027 FAX: 03-5636-6024 info@mits-com.com

お試しは
コチラ！



全ての機能が
2ヶ月間無料！

けんりようご ふきゅうけいはつ
② 権利擁護・普及啓発

STEP えどがわは、常に障害を持つ人も持たない人も地域で生活していくために必要なことは何かを考え続けています。イベントや研修会を通じて、STEP の利用者やヘルパー、そして地域の人たちに向けて、発信した権利擁護・普及啓発活動を報告します。

1) STEP えどがわの情報保障に関する取り組み

なかそねすずね ちょうかくしょうがいとうじしゃ
中曽根鈴音（聴覚障害当事者スタッフ）
とねがわひろみ じょうほうほししょう
利根川弘美（情報保障チームリーダー）

① STEP 情報保障チーム

げんざい すてっ ない ひら
現在、STEP 内で開くミーティングは
すてっ じょうほうほししょう じょうほうほししょう
STEP 情報保障チームで情報保障のサ
ポートを行っています。

ちょうかくしょうがいとうじしゃ すずね
聴覚障害当事者スタッフ（鈴音）を
ちゅうしん こんねんどう せつりつ もじ
中心に今年度より設立し、文字による
じょうほうほししょう じっし
情報保障『パソコンテイク』を実施して
います。

1. テイカーの配置

げんざい いっかい か いぎ めい
現在は一回の会議につき2名で
じょうほうほししょう おこな はいち
情報保障を行う『テイカー』を配置して
います。

コロナ禍によりオンラインでのミーティング『Zoom』を使用しているため、そのミーティングにテイカーさんにも参加いただき、15分交代でミーティングで話されている内容をチャット画面に打ち込んでいただいています。

テイカーさんは現時点でテイカー専属の登録の学生さんにご協力いただいて

おり、翌月のミーティング予定が決まり次第、テイカーさんに予定を確認し、調整しています。

スタッフミーティングのみ、STEP スタッフ内で週替わりでテイカー2名を配置しています

2. パソコンテイク

じっさい じょうほうほししょう こんご
～実際の情報保障と今後～

パソコンテイクは話している内容、状況（音が聞こえづらい、電話がかかってきて慌てているなど）をそのまま文字化して情報保障を行うため、実際にミーティングに参加する方も協力し、ゆっくり話す意識をしたり、テイカーさんが打ち終わるのを待ったり、話をかぶせないよう発言するなどの工夫をしています。

聴こえるスタッフも、少し前に話した内容を振り返ったり、少し席を外していた際の内容を確認したりと、思いのほかパソコンテイクに助けられている場面が多く『みんなが参加できる会議』はただ

ひとり ため たが よ
一人だけの為ではなく、お互いに良いメリットが得られるのだと実感しております。

こんご じょうほうほしょう りかい ふか ため
今後情報保障の理解を深める為に
じょうほうほしょうこうざ じっし おお じょうほう
情報保障講座を実施し、より多くの情報を得られるよう、パソコンテイクのスキル向上の研修や練習会を実施する予定です。

② STEP えどがわ内の手話教室

すてっふ しゅわりよく
STEP スタッフの手話力スキルアップのため、多くのスタッフが集まる毎週のスタッフミーティング前の10分を利用して手話教室を行っています。

ねんくらいまえ つづ
これは3年位前から続けているもので「STEP スタッフ全員手話検定3級合格」を目標にしており、すでに達成した人もいます。

か い たいめん かいぎ むずか
コロナ禍に入り対面での会議が難しくなったということもあり、手話教室を少しの間お休みしてしまいましたが、再び目標達成のためにオンラインにて再開しました。

③ オンライン手話サークル

1. 手話サークルをはじめたきっかけ

こんねんど はい すてっふ ない しゅわ
今年度に入り、STEP内での手話の浸透を目指し、実際に手話を使って楽しく手話を学べるよう手話サークルを開きました。

もともと しゅわ きょうみ も
元々、手話に興味を持っているスタッフがいることや、せっかく聴覚障害者ス

すずね い しゅわ おし
タッフの鈴音が居るのだから、手話を教えてもらい、実際に手話を使う場を設けて手話の魅力をもっと広めたい、という思いがあり、「ひとまず初めてみよう」とスタートしました。

2. 手話サークルでのルール

じかんはん
このサークルでは、1時間半ほど、じつくりと手話を使っていきます。

なか やくそく こえ やす
その中で、お約束として、声はお休みするルールを設けています。

おんせい き ひと おんせい
音声があると聴こえる人はその音声に頼りがちになり、結局は「どうやって手話で表すのだろう？」と、自然と考える工夫をしなくなってしまう。

しゅわ たんご とき あいて
手話の単語がわからない時、相手にどうやって伝えるかは意外と手段があるということが知られていません。手話も大切ですが、伝える手段は一つではなく、色々な可能性もあることも大切にしていきたいと思っています。

わたしじしん しゅわ まな じっかん
また、私自身が手話を学んできて実感したのは、「声なし」の方が自然と手話が身につくし、何より手話を使っているろう者（聴覚障害者）自身は音や声は使わず、目で情報を取り入れる手話を使っているの、それに慣れることが手話を身に着ける第一歩だということです。

もちろん、それによりどうやって伝えたいのか悩むこともあります。そのあえて悩む経験を積み重ねることも大切だと考えています。

3. 手話サークルでの取り組み

今まではスタッフミーティングの時間を
使い、対面で5～10分間ミニ手話教室を
開催していましたが、オンラインでの手話
サークルの実施は初めての試みでした。

現在は、試行錯誤しながらサークルを
続け、STEPのスタッフや一部の利用者
さんに協力を募り、月に2回開催してい
ます。

初心者向け、日常会話向け、とグルー
プ分けをし、勉強の場よりもフランクで
楽しめるような、なるべく自然と手話で
話すような流れを心がけています。

まだまだコロナが終息する様子がなく、
しばらくはオンラインでの開催になりま
すが、進行にもだいが慣れてきたので、
今後は登録のヘルパーさんや利用者さん
にも声をかけ、手話をきっかけに交流で
きるような場にもできればと考えていま
す。

そして、中には「この手話はやりにくい」
など、手指の動きによって表現しにくい
という声をいただきます。

そうした場合でも、なるべく近づけて
表現することで「もしかして〇〇って言
いたい？」と伝わったり、表現できなく
ともその手話の意味を知っているだけで
もコミュニケーションの幅が広がるので、
いろいろな可能性のあることを伝えてい
ければと思っています。

さいごに

鈴音です。STEP えどがわに入って5年

が経ちました。今となっては、STEP え
どがわの情報保障体制は自慢できるまで
になっていると感じています。毎回会議
の直前までテイクをしてくれる人を探す
などで自分の必要な支援を確保するた
めに精一杯になっていましたが、情報保障
チームができたことにより余裕ができ、
私自身これまで以上に会議に参加する
(発言する) ことができるようになりました。

私が一人であたふたするより、チーム
を作ってみんなが少しずつ協力すれば
あつという間に体制は整いました。

また、STEPには障害により手話を
表すことができないスタッフもいます。
STEPで手話を教え始めた時からそのス
タッフには「私はあなたの口話を読んで
言っていることを理解するから、あなた
は手話を覚えて私の手話を読み取って
ね。」と伝えています。お互いがちよっ
と頑張ることによりコミュニケーション
はとれています。私はこれでいい、これ
がいいと思っています。

聴覚障害者のための情報保障だと思わ
れがちですが、聞こえる人でも文字情報
があるほうがわかりやすいという人もい
ますし、聞き取れなかったときにテイク
をちらっと確認できるのもいいよね。と
言ってる人もいます。みんなでつくる、
みんなのための情報保障。これからも続
けていきたいです。

2) イベントの開催

利用者^{りようしや}とヘルパー、関係者^{かんけいしや}が普段^{ふだん}の関係性^{かんけいせい}を少し^{すこ}超えて、個人^{こじん}として楽しむ場^{たの}として設け^{もう}られている定期^{ていき}イベントは、コロナ禍^かにより、対面^{たいめん}による開催^{かいさい}は中止^{ちゅうし}せざるをえません^えでした。オンラインでの開催^{かいさい}を模索^{もさく}した2020年度^{ねんど}。年度^{ねんど}の後半^{こうはん}で、二つのイベント^{ふた}を開催^{かいさい}することができました。また、2019年^{ねん}の台風^{たいふう}19号^{ごういこう}以降^{えどがわ}、江戸川区^{えどがわ}でも防災^{ぼうさい}の取り組み^{とくみ}が進み^{すす}つつありますが、STEP^{すてっぷ}はそのずっと前^{まえ}から、防災^{ぼうさい}や避難^{ひなん}について活動^{かつどう}を続けています。2020年^{ねん}はコロナウィルスの出現^{しゅつげん}で、防災^{ぼうさい}のイベントは自粛^{じしゅく}せざるをえず、感染^{かんせん}防止^{ぼうし}対策^{たいさく}に奔走^{ほんそう}することになりました。パンデミックはもはや災害^{さいがい}…そういう年^{とし}だったか^{おも}と思います。

実施日 ^{じっしび}	イベント名 ^{めい}
12月12日 ^{がつ にち}	オンラインでクリスマス会 ^{かい}
2月27日 ^{がつ にち}	オンライン映画上映会「私はワタシ～ over the rainbow」 ^{おーばー ゴー れいんぼー}
※中止になったイベント お花見 ^{はなみ} 、大規模水害 ^{だいきぼすいがい} を想定 ^{そうてい} した広域避難訓練 ^{こういきひなんくんれん}	

① オンライン映画上映会報告^{えいがじょうえいかいほうこく} (記：中曽根鈴音^{き なかそねすずね})

2021年2月27日^{ねん がつ にち}に「私はワタシ～ over the rainbow」^{わたくし}の映画上映会&トークショー^{えいがじょうえいかいあんど}をzoomウェビナー^{くしょー}を用いて行いました。

STEPえどがわ^{すてっぷ}が様々なコミュニティ^{さまざま}と繋がるきっかけ^{つな}の一つ^{ひと}になればいいな^{おも}い、2年前^{ねんまえ}から映画^{えいが}の上映会^{じょうえいかい}を企画^{きかく}しています。2年前^{ねんまえ}は「きらめく拍手^{はくしゅ}の音^{おと}」という耳^{みみ}の聞こえない両親^きの日常^{りようじん}を撮^{にち}ったドキュメンタリー映画^{えいが}を上映^{じょうえい}し、ト



クショーでは CODA(聴覚障害のある親を持つ聞こえる子供) の中津真美さん、SODA(聴覚障害のある兄弟姉妹をもつ聞こえるきょうだい) の藤木和子さんをゲストに招き、お話をきかせていただきました。

昨年度はコロナ禍により、みんなで集まって会を開くのは難しかったのですが、オンラインでという形で無事に行うことができました。全国どこからでも参加可能ということもあり、100人近くの申し込みがありました。STEP えどがわは LGBT 団体との関わりがほとんどなかったのですが、2 年ほど前に地元の LGBT 団体と繋がることができ、少しずつ LGBT のことを知っていきました。

レインボーフラッグを事務所に飾ったり、STEP のロゴにもレインボーカラーを加えたり……。さらに、もっと深く知りたい・つながりたいという思いがあり、昨年度の上映会のテーマは「LGBTs」になりました。



上映映画である「私はワタシ～ over the rainbow」は、LGBTs(レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー

などの性的マイノリティのこと) の当事者 50 人くらいに一人ひとりインタビューし、当事者が思い思いのままに語るドキュメンタリー映画でした。日常生活の中で生きづらさや葛藤を抱えながらも「私はワタシ!」と、“自分”として生きることが模索し続けているいろんな人たちが登場しました。



障害のある私たちと境遇や背景は違えど、社会の中で「生きづらさ」を抱えてる者同士、サポートしあえる関係でいたいなと思いますし、そのためにはなにより「知る」ことが大事だと思うので、今回 100 人近くの方と一緒にこの映画を鑑賞できてよかったと思います。

自分の性別は自分で決めてもいいし、決めなくてもいい。もっと言えば、自分は何者なのか、わかっててもいいし、わからないままでもいい、そのままでもいい、と心が軽くなるような、なんだか優

しい気持ちになるような
えいが
映画でもありました。

じょうえいかいご
上映会後のトークショー
では、地元のLGBT
団体の代表である七崎
良輔さんと、STEP えど
がわのヘルパーであり、
LGBT 当事者でもある
石塚楓さんをゲストに招



き、パートナーシップ制度や婚姻制度の
こと、団体で国や都道府県に交渉している
こと、アライ（LGBT を理解・支援する人）
としてできることなど、時間いっぱい
パワフルなお話を聞かせていただきました。

LGBT 当事者に限ったことではないで
すが、100 人いたら 100 通りのキャラ
クターがある、あなたはこうだから、こ
うでしょ。というような、一括りにしな
い視点をもつことが大事、という言葉が
特に今も心に残っています。ひとりひと
りを見つめることができるような人に、
STEP えどがわに、なっていけたらいい
なと強く思いました。

映画上映会はテーマを変えながら、
今後も続けていく予定なので、もし、こ

のようなことをテーマにしてほしいなど
ご希望ございましたらぜひとも教えてく
ださい。

そして、一緒に映画を楽しみながらい
ろいろなことを学んで知っていけたら私
もとてもうれしいです。どうぞよろしくお
願いいたします。

② STEP の防災意識向上の取り組み (記：市川裕美)

●6月27～28日 大規模水害を想定 した集団広域避難訓練 <延期>

高潮・荒川氾濫等の大規模水害が発生
する予測が出た際、江戸川区は広域避難
を推奨していますが、日常的に介助
を使って生活する者にとって単独での
避難、避難先での生活は困難なため、
STEP では事前に避難先を確保して集団
で避難することを検討しています。

その訓練として利用者・介助者とその
家族等 50 名規模での避難訓練を行な
う予定で助成金も申請していましたが、



コロナの影響で避難先に予定していた
宿泊施設が休業のため実施できませんで
した。

●7月27日 東京新聞取材 (8月14日
朝刊)

障害者も高齢者も「インクルーシブ
防災」とのタイトルで、台風19号の際
の避難の話の取材を受けました。事業所
としての話を市川、実際に避難所に避難
した利用者の伊藤圭子さんに避難所での
話をさせていただきました。

●9月11日 (内部向け)
大規模水害研修

利用者さん介助者向けに江戸川区にお
ける大規模水害の発生予測の情報の見方
や事前準備、広域避難の意向確認などを
行ないました。

●朝日新聞取材 (10月8日 天声人語)

事前の広域避難の難しさなど台風19
号の際の話や、その後の広域避難訓練の
話などについて取材を受けま
した。

●JIL 新型コロナウイルス
対策本部開設

JIL 会員に向け介助における
注意点等コロナの情報提供、
各センターの状況報告などを
報告しました。

●6月 ふんわりチャンポン大作戦 受講
公益財団法人「風に立つライオン基金」

(さだまさしさんが設立した法人) の事業
で介護事業所に「NPO 法人 ジャパン
ハート」の医師・看護師をコロナ対策の
指導に派遣してくださる事業。

STEP のマニュアルのチェック、PPE
(個人防護具) 着脱指導、質疑応答と、たっ
ぷり時間をかけてご指導いただきました。

またその模様は産経新聞にも掲載され
ました。



3) ヘルパー研修会

(記：布川悠)

ヘルパー研修会は、基本的には月に一度、2 時間程度で開催をしております。知識や技術の向上・ヘルパーとしての心構えを学ぶ機会であるとともに、普段あまりヘルパー同士の顔合わせが少ない仕事柄もあるので、ヘルパー同士やヘルパーと当事者スタッフとの交流も目的の1つです。また、STEP えどがわで取り組んでいることを広く知ってもらう為、その時力を入れている事柄をテーマに取り上げることも多くあります。

令和 2 年度はコロナ禍に突入し、令和 2 年 4 月には初の緊急事態宣言が発令されました。コロナ対応に追われ、同じ空間で人と顔を合わせられない状況となり、しばらくの間は研修会もお休みを余儀なくされました。

しかしそこから半年をかけ、ZOOM でのリモート会議にもだいが慣れてきた 9 月、リモート研修会という形で再開することができました。久しぶりの研修会テーマはやはり「コロナ」です。STEP でどのような対応をしていくかを共有する目的はもちろんですが、気軽に雑談にも来れなくなってしまった介助者皆の不安な気持ちを少しでも吐き出してもらえたら・・・という気持ちも大きかったです。画面越しではありましたが、皆の顔を見ていろいろな話をできる喜びを感じた研修会となりました。

今後もしばらくはリモート研修会が続いていきそうです。少しの空き時間などありましたら是非、研修会にご参加ください^^

< 2020 年 4 月～ 2021 年 3 月までの実施内容 >		
開催日	テーマ	参加者
9 月 11 日	コロナ禍での STEP の対応について + 緊急事態宣言中におこしたヒヤリハット事例の共有	18 名
10 月 11 日 12 日	大規模水害時の避難行動を理解する	22 名
11 月 26 日	守秘義務・法令倫理 ロールプレイを基に G W	18 名
1 月 21 日	江戸川区障害福祉計画の理解とパブコメを出してみよう！	21 名
2 月 25 日	コロナ陽性者の介護現場における防護服着脱とゾーニングについて	18 名
3 月 8 日	障害者虐待とアンガーマネジメントについて	25 名

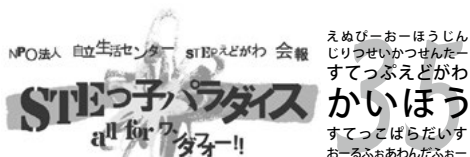
4) 会報の発行、ホームページの運営

STEP えどがわ会報「STE っ子パラダイス」は、36 号をもって、紙面発行を終了いたしました。2002 年（平成 14 年）11 月に STEP えどがわが設立され、翌年 2003 年 6 月発行の創刊号から 18 年にわたり年に数回ペースで発行してまいりました。

これまで STEP えどがわの活動を紙媒体にてお伝えしてまいりましたが、今後は、主にホームページ、SNS にて情報発信を行うとともに、年次報告書として年 1 回、紙面による活動報告をしていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

2020 年度の会報	
だい 第 36 号	ごう (2021 年 1 月)
だい 第 35 号	ごう (2020 年 11 月)
だい 第 34 号	ごう (2020 年 5 月)

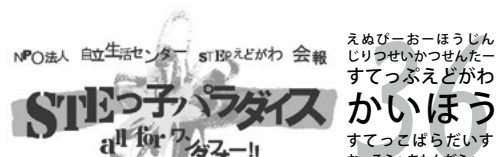
これまでの会報はすべて、ホームページからご覧いただけます。



2020 年 9 月号



「3 密」「ソーシャルディスタンス」「東京アラート」「パンデミック」「ロックダウン」「クラスター」「アベノマスク」……書ききれないほどの新しい言葉が飛び交う中、2020 年度が始まった。4/16 安倍首相が日本国に緊急事態宣言を発令。安倍首相の会見を見ている我が家にも突如緊急事態が訪れた…真剣に会見を見ている最中、10 年お世話になったプラズマテレビが突然消えた…情報が入って来ない…緊急事態宣言発表にも関わらず、慌ててテレビを買いに行くはめになった。そんなコロナ禍の中、我が家の次男が小学校入学とめでたい！！【あさみ】



2021 年 1 月号



あけましておめでとうございます。
突然ですが、みなさんお餅はお好きですか？何個くらい食べるものなのでしょうか。我が家では今年の鏡開き、磯部、きな粉、お汁粉と三種類用意しました。
一晩で 14 個（7 歳の娘は 5 つ、13 歳の息子は 7 つ）ものお餅を焼いてびっくりしました。来年は何個必要なんだ？！
正月から来年度の正月に思いを馳せていました。【天満】

5) STEP えどがわの外部協力 (講師派遣やネットワーク作りのための協力)

STEP えどがわのスタッフは外部協力として、講師派遣を始め、各種ネットワークや取り組みに協力する活動も行っています。各種団体や学校、行政などと当事者が積極的に関わりを持つことでSTEP えどがわを知ってもらうとともに、幅広く情報を集めSTEP えどがわの活動に活かしています。

① 講師派遣等

つちやみねかず とうじしゃ
土屋峰和 (当事者)

- 2020 年度バリアフリー障害当事者
リーダー養成研修
- ・ 前年度研修エコモ財団報告 (4/15)
- ・ 事前打合せ会議 (毎週火曜日)
- 研修本番
- ・ ステップアップ研修
(10/29、11/5、11/12)
- ・ とっかかり研修 (2/2、2/16、3/2)
- 観光庁
- ・ 観光施設のバリアフリー対応
認定制度ヒアリング (5/27)
- 国交省
- ・ 移動円滑化
建築設計標準トイレ会議 (7/8)
- ・ 鉄道段差隙間の
マーキング等意見交換 (8/12)
- TOTO ヒアリング (7/21)
- エコモ財団主催
「交通サポートマネジャー研修」
- ・ 研修動画教材 WEB 会議 (8/5、1/6)

- ・ WEB 研修 (10/21、12/4)
- B F 化日本武道館視察 (8/24)

ひるかわりょうこ とうじしゃ
蛭川涼子 (当事者)

- 東京都相談支援従事者研修検討会委員
- ・ 全体会議
全 4 回 (5/15、7/2、9/4、3/15)
- ・ 初任者研修チーム会議 (6/3、6/11、
6/18、6/25、7/16、8/7、8/25)
- 江戸川区障害福祉計画策定委員会
- ・ 策定委員会
全 3 回 (7/9、11/5、3/25)
- 江戸川区相談支援事業者連絡協議
(江相連)
- ・ 理事会 奇数月 (4/27、7/22、9/16、
11/18、1/19、1/25)
- ・ 研修部会 (4/17、5/8、9/23)
- ・ 定例会 偶数月の第 3 火曜日 (6/16、
9/15、10/20、11/11、2/16)
- 江戸川区移動支援事業者連絡会
(移動連)

- 準備会 (9/14、9/29、
9/30、10/13、10/19)
- 設立総会のホスト (10/26)
- 運営委員会 (11/17、1/26)
- 研修会のホスト (2/25)

くどうとしこ とうじしゃ
工藤登志子 (当事者)

- D P I 日本会議
しょうがいしゃさべつかいしょうほう ぼうじえくとちーむ かいぎ
● 障害者差別解消法 P T 会議
(4/15、7/15、10/21、1/20)
- バリアフリー部会 (8/6、9/17、10/15、
11/19、12/10、1/14、2/25、3/11)
- 新幹線のバリアフリーソフト・ハード
たいさくけんとうわーきんぐぐーぶ
対策検討 W G
(4/17、4/24、5/25、6/11、
6/30、7/28、8/18、8/28)
- 参議院国土交通委員会 傍聴 (5/12)
- 中央大学研究開発機構・国交省 ユ
ニバーサル社会における MaaS の
かつようほうさく けんきゅうかい
活用方策についての研究会 (バリアフ
リー MaaS)(5/14、5/26、2/17)
- 移動等円滑化の促進に関する基本方針
いどうなどえんかつか そくしん かん きほんほうしん
の一部改正についての意見交換会
(5/20)
- 令和 2 年度第 1 回「公共交通機関の
バリアフリー基準等に関する検討会」
きじゅんとう かん けんとうかい
随 行 (6/10)
- バリアフリー法及び関連施策のあり方
ほうおよ かんれんしさく かつ
に関する検討会 (6/17、11/18)
- 自由民主党ユニバーサル
じゆうみんしゅとう
社会推進議員連盟 随 行 (6/23)
- 高輪ゲートウェイ駅
たかなわ えき

- あかばこくどうこうつうだいじんしさつ
赤羽国土交通大臣視察 (6/26、7/2)
- 高齢者、障害者等の円滑な移動等に
こうれいしゃ しょうがいしゃどう えんかつ いどうとう
配慮した 建築設計標準の改正に関する
はいりよ けんちくせつけいひょうじゅん かいせい かん
検討会及び小規模店舗 W G
(6/29、7/8、10/28、12/24、12/25)
- 新幹線のバリアフリー実証実験
しんかんせん じっしょうじっけん
(7/12、7/28)
- ミニ新幹線等打ち合わせ
しんかんせんなどう あ
(7/16、8/12)
- NHK「ひるまえほっと」
えぬえいちけー
取材協力 (7/18)
- 「JISS0024 高齢者・障害者
じ すえす こうれいしゃ しょうがいしゃ
配慮設計指針－住宅設備機器」
はいりよせつけいしん じゅうたくせつびき
改正 WEB 会議 (7/21)
- 鉄道駅の環境整備に係る
てつどうえき かんきょうせいび かつ
意見交換 (8/12)
- 令和 2 年度 路線バスに係る車いす
れいわ ねんど ろせん かつ くるま
事故対策検討会 (8/12、9/3、12/3)
- 「JISS 0024 高齢者・障害者
じ すえす こうれいしゃ しょうがいしゃ
配慮設計指針－住宅設備機器」
はいりよせつけいしん じゅうたくせつびき
改正分科会 (8/24、10/2、12/18、1/22)
- 第 2 回移動等円滑化評価会議
かいせいぶんかかい
関東分科会 (8/26)
- 令和 2 年度「公共交通機関のバリア
れいわ ねんど こうきょうこうつうきかん
フリー基準等に関する検討会」随 行
きじゅんとう かん けんとうかい ずいこう
(9/1)
- 特性に応じたテーマ別意見交換会
とくせい おう べつていけんこうかんかい
「肢体不自由」④ (9/8)
- 道路空間のユニバーサルデザインを考
どうろくうかん かんが
える懇談会 (9/15、3/5)
- 移動等円滑化評価会議
いどうなどえんかつかひょうかかいぎ
(9/28、3/17)

- 多機能トイレ検討会 (10/9)
- JIL 国際協力 P T
インタビュー (10/27)
- 車椅子使用者トイレにおける
便器高さの意見交換 (10/27)
- 障害者、高齢者等アクセシブルサー
ビス検討委員会 (10/29、11/24、
1/20)
- バリアフリー障害当事者
ステップアップ研修 (10/29)
- 第1回 駅の無人化に関する
意見交換会 (11/6、12/21、1/21)
- 赤羽大臣による霞ヶ関駅視察 (11/11)
- 成田空港のトイレ視察 (11/30)
- 障害当事者参画に係る取組 (12/2)
- 建築設計標準の改正に関する検討会及
び小規模店舗 W G に係る有明ア
リーナ、コロシウム視察 (12/9)
- 新国立競技場シンポジウム (12/12)
- バリアフリー対応ナビゲーションに関
するニーズ把握について意見交換会
(1/6)
- 空港アクセスバスにおけるバリアフリー
基準適用除外認定に関する見直し 打
ち合わせ (2/4)
- ユニバーサルデザイン 2020 評価会
随行 (3/19)

そだ な つ き どうじしゃ
曾田夏記 (当事者)

- 東京都自立支援協議会 副会長
交流会 (9/28)
- セミナー (12/14) + 布川
- 本会議 (5/27、2/25)
- 東京都障害者差別解消支援協議会 委員
本会議 (10/20、1/12)
- 持続可能な社会に向けた学生グループ
「障害とSDGs」 (4/16)
- JICA 能力強化研修
『障害と開発』概論 (6/2)
- 国際医療福祉大学
「リハビリテーション概論」
(7/3) + 田中・布川
- 明治学院大学
「ソーシャルワーク基礎実習」 (10/9)
- 国際リハビリテーション研究会
「日本の障害当事者運動」 (11/8)
- D P I 日本会議
障害者差別解消法 P T 会議

いちかわひろみ
市川裕美 (コーディネーター)

- 東京都肢体不自由児者父母の会連合会
研修会～多発する自然災害に備えて～
(11/11)

②当事者参画

1. 第6期江戸川区障害福祉計画策定 委員になってみて (記：蛭川涼子)

2020年度は、2021年度から3年間の第6期江戸川区障害福祉計画および第2期江戸川区障害児福祉計画の策定期間でした。計画についての説明は、紙面も足りないのので省略して（聞きたい人は、個別にいつでもどうぞ！）、公募委員として参画した1年間の活動報告として振り返ってみたいと思います。

■「当事者参画」は自立生活センターの大事な理念のひとつ

3年前、第5期江戸川区障害福祉計画の策定委員の公募が始まったとき、これは応募しなければと思ったのは、自立生活センターの当事者スタッフとして当事者参画を実行するためでした。そのときはあえなく落選。3年後の今回、再び応募したら選考に通過してしまい、毎回恐怖と緊張でぶるぶる震える気持ちを抱えながらの1年間が始まりました。

■何のために計画を作るの？（簡単すぎる説明でごめんなさい）

市町村障害福祉計画は、国が決めた障害者福祉の方向性（基本指針）を、

都道府県や区市町村がどうやって実現するのかを、曖昧にしないために作られます。国がどんなに理想を掲げても、実行するのは都道府県であり区市町村。特に区市町村の方針が空っぽだったら、私たちの生活に、国の理想は届きませんからね！

計画の作られ方は、自立支援協議会の部会（江戸川区にはない仕組み…）として議論の場を設けて1年かけてじっくり官民で地元の福祉を考える自治体もあれば、計画案の骨組みを外注して委員会でも確認していく自治体など色々あります。江戸川区も外注型でした。

■当事者の声、区民の声を届けたい

さて、緊張しまくりで参加した第1回策定委員会は、第6期の国の基本方針の説明と江戸川区の第5期の実績報告と少しの質疑応答で終わりました。私は、たった3回の委員会の中で、委員の意見が反映される道筋が見えないことが気になっていたので、計画についての意見を伝えるにはどうしたらよいか質問をしました。

その結果、委員には第2回策定委員会の前に、計画案が送付され意見や質問を提出できることに。「やった～！」と思いました。プレッシャーも半端ありません。改めて資料を読み込んで、コロナストレスで崩壊しそうな頭をなっちゃんや今村さんに助けても

らいながら意見^{いけん}をまとめたり、江相連^{えそうれん}
(江戸川区相談支援事業者連絡協議会)
(※)の有志^{ゆうし}で勉強会^{べんきょうかい}を開いたり、
何人^{なんにん}もの人^{ひと}に助け^{たす}てもらいながら、意見^{いけん}
を送付^{そうふ}することができました。

余談^{よだん}ですが、障害福祉^{しょうがいふくし}サービス
等利用計画^{とうりようけいかく}作成^{さくせい}を担う、相談支援専門員^{そうだんしえんせんもんいん}
にとっては、国^{くに}が示^{しめ}した相談支援体制^{そうだんしえんたいせい}
の充実^{じゅうじつ}と強化^{きょうか}を目標^{もくひょう}のひとつに掲げ^{かか}た
今回^{こんかい}、区^くがどのような道筋^{みちすじ}を立て^たてるのか
関心^{かんしん}が高く、自分^{じぶん}たちに必要^{ひつよう}な体制^{たいせい}のあ
り方^{かた}について、区^くに要望書^{ようぼうしょ}を提出^{ていしゅつ}するこ
とになったのですが…「区^くは区^くで考^{かんが}えて
いますから、すべてが決^きまったらお伝^{つた}え
します」という何^{なん}ともつれ^{かいどう}ない回答^{かいとう}で、
温厚^{おんこう}な江相連^{えそうれん}の事務局^{じむきょく}長^{ちやう}さんが静^{しず}かに怒^{いか}
りをにじませ^{すがた}ている姿^{いんしやうてき}が印象^{えいさう}的^{てき}でした。
江戸川区^{えどがわく}で官民協働^{くわんみんきやうどう}の道^{みち}のり^{はる}は遥^とか遠^とい

...

■届^{とど}いたか、玉碎^{ぎよくさい}か

さて、こうした前半戦^{ぜんはんせん}の当事者^{とうじしや}の声^{こゑ}、
現場^{げんば}の声^{こゑ}は届^{とど}いたのでしょうか。

2回目^{かいめ}の策定委員会^{さくていいいんかい}は、第6
期江戸川区障害福祉計画^{きえどがわくしょうがいふくしけいかく}案^{あん}と委員^{いいん}から
の意見^{いけん}へ区^くの考^{かんが}え方を説明^{せつめい}がなされまし
た。委員^{いいん}の意見^{いけん}が反映^{はんえい}された項目^{こうもく}もある
いっぽう、注目度^{ちゅうもくど}が高い項目^{たか}ほど回答^{かいとう}は曖昧^{あいまい}
だったように思^{おも}います。

年^{とし}が明^あけ、パブリックコメント募集期間^{ぼしゅうきかん}
が始^{はじ}まり、最終案^{さいしゅうあん}が公開^{こうかい}されてびっくり
仰天^{ぎやうてん}。江相連^{えそうれん}が設置^{せっち}を願^{ねが}い、区^くからは

ひつよう 必要^{ひつよう}ないと言^いわれた「基幹相談支援セ
ンター」の設置^{せっち}にかんする記載^{きさい}がされて
いたのです。「区^くで決^きめてから公表^{こうひやう}しま
す」というのはそういうことだったのね
…と遠^{とお}い目^めになりました。江相連^{えそうれん}として
は要望書^{ようぼうしょ}の内容^{ないよう}が反映^{はんえい}されているのかい
ないのかわからない最終案^{さいしゅうあん}に対し、計画^{けいかく}
が「絵^えにかいた餅^{もち}」にならないためには、
パブコメ^{おく}を送^{おく}るしかありません。

私たち^{わたし} STEP えどがわもまた、ヘルパー
研修会^{けんしゅうかい}を通じて、第6期^{だい}計画案^{けいかくあん}を勉強^{べんきやう}
し、一区民^{いちくみん}としてのパブコメ^{おく}を送^{おく}る行動^{こうどう}
をヘルパーや利用者^{りようしや}の方^{かた}々に働^{はたら}きかけま
した。区民^{くみん}が関心^{かんしん}を持^もっていることを示^{しめ}
すことのできるパブコメ。大事な市民^{だいじしみん}の
権利^{けんり}です。STEP 全体^{すてっぷ ぜんたい}での当事者^{とうじしや}参画^{さんかく}で
す。「パブコメ送^{おく}ったよ〜」と声^{こゑ}を掛^かけて
もらって私^{わたし}は元氣^{げんき}ができました。

7/9 第1回策定委員会^{だい かいさくていいいんかい}

9/1 江相連^{えそうれん} + STEP 有志^{ゆうし}で勉強会^{べんきやうかい}

9/2 個別意見提出^{こべついけんていしゅつ}

10/15 区より計画案^くの意見^{けいかくあん}事前提出^{いけんじぜんていしゅつ}連絡^{れんらく}

10/25 計画案^{けいかくあん}の意見^{いけん}事前提出^{じぜんていしゅつ}

11/5 第2回策定委員会^{だい かいさくていいいんかい}

1/15 パブコメ開始^{かいし}

1/20 最終案^{さいしゅうあん}についての意見^{いけん}提出^{ていしゅつ}と個別説明^{こべつせつめい}

1/21 STEP ヘルパー研修会^{すてっぷ けんしゅうかい}

1/15 パブコメ終了^{しゅうりよう}

3/25 第3回策定委員会^{だい かいさくていいいんかい}

■大事なのはこれから

パブコメが終われば、もうやれることはほぼなく、あとは結果を待つしかありません。第3回目の策定委員会は、パブコメの説明で終わりました。想定した通り、注目度の高い項目は、区民の意見はされず、公開された最終案から変更された点はほとんどありませんでした。ただ、例年になくコメント数が多かったのは、色々働きかけた結果かなと思っています。区に対して「この件、無関心じゃないよ！」と伝えたのは一つの成果だと思っています。

振り返れば、1回目と2回目、課長の目はいつも吊り上がっていて、私は心臓がばくばくしていました。なぜ行政の人たちは民間の意見に構えてしまうんだろう…。私そんなにきついこと言ってたかな？（…まあ、言っていたんでしょうね…）ということで、最後の委員会は、計画策定に参画できた感謝を述べるに留めて、意見は言わないようにしました。その結果？なのかはわかりませんが、

最後は課長の笑顔が見られました。もやもやしましたが、まあいっか！

大事なのはこれから。3年後の第7回策定委員会が開催されるまでの間、江戸川区の良い所と必要とされている改善点を、江戸川区に上手に伝えられるようにならねば。次の公募委員には、もう私は選考されないでしょうから、STEPにつながっている誰かに応募してもらいたいなあと思えます。その時は、今回私が色々な人に助けてもらったように、全力でサポートします！…そのあなた、どうですか？！

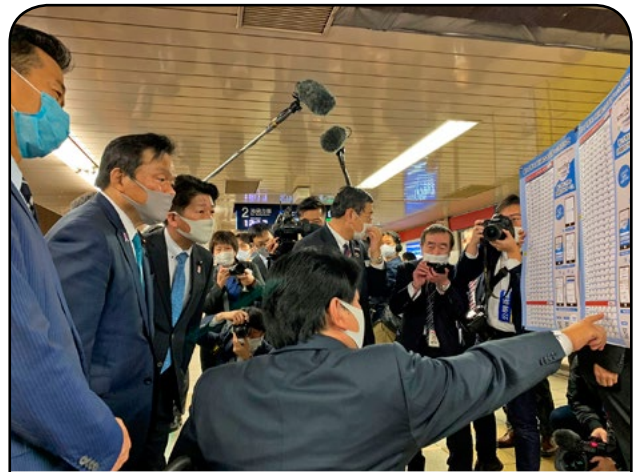
※STEPでは、自立生活をセルフプランで実現させたいけれど難しい人を中心に、4年前より計画相談のサポートを始めました。障害者のよきパートナーとして相談支援に従事する人たちの集まり、江戸川区相談支援事業者連絡協議会とも、当事者参画の一環として関係を築き、とてもお世話になっています。



2. 赤羽国土交通大臣による東京メトロ霞ヶ関駅視察レポート (記：工藤登志子)

2020年11月11日、赤羽国土交通大臣が東京メトロ霞ヶ関駅の視察をされ、DPI日本会議の佐藤事務局長、山崎（バリアフリー部会副会長）とともに参加してきました。今回の視察では主にホームと車両間の段差・隙間解消の状況や案内表示について確認されました。また、電動車いすユーザーである私が実際に車両から渡し板を使わずに下車し、その様子を見て頂きました。

ホームと車両間の段差・隙間解消のための取り組みはこれまでに鉄道事業者との意見交換会や実証実験等を通して、昨年度に車いす利用者が単独乗降できるための目安値として段差7cm、隙間3cmが定められました。これにより、現在までに各事業者で段差・隙間の解消工事が進められています。また、段差や隙間が解消された駅がわかるように事業者のウェブサイトやアプリなどで情報提供されています。



駅のバリアフリー整備状況の説明する佐藤事務局長と真剣に話を聞いている赤羽大臣、石川ひろたか議員、岡本みつなり議員。その様子を報道陣がカメラを向けて囲んでいる。

赤羽大臣はホームの状況を確認しながら、「車いすで乗降する際の衝撃はどの程度感じるか」、「手動車いすはこの隙間でも大丈夫か」等、利用者の視点に立って熱心に質問されていました。また、会見の中では「バリアフリーは特別なものではなく当たり前の物になるよう取り組んでいきたい」と発言され、未整備の駅も整備が進んでいくよう求めています。

●参考：下記ワードで  検索

東京メトロ ホームと車両床面の段差・隙間縮小の整備状況



スミーズメトロ
(乗り換え情報案内サイト)



らくらくおでかけネット
(乗り換え情報案内サイト)



佐藤事務局長からは、2000年の交通
バリアフリー法以降20年で格段にバリア
フリー化が進んだことへの感謝や、次の
課題として車いす利用者が自由にどこへ
でも行けるように段差・隙間解消を進め
ていって欲しいと発言していました。



段差・隙間解消された乗降口。ホームのかさ
上げとくしゴムを設置することで車いすでの
単独乗降が可能になりました。

●感想

今回私が実際に渡し板を使わずに
単独乗降してみたところ、それほど大
きな衝撃は感じず、隙間に落ちるの
ではないかといった不安も感じません
でした。これまでは渡し板の手配に時間を要
するため、通常の所要時間よりも30分
～1時間ほど早く出発しなければならな
かったり、急な予定の変更にも対応で
きず不便さを感じていましたが、これか
らはそのようなストレスを感じずに好
きな時にどこへでも行けると思うと非常
に嬉しく思いました。バリアフリー整備が

進み移動の自由が確保されていくこと
で、私たちが「障害」を感じることもな
く日常生活を送れるようになることはこ
んなに素晴らしいことなのか、と実感し
ました。今後は首都圏のみならず、全国で
段差・隙間解消の取り組みが進んでいく
と良いなと思いました。

●掲載情報

【令和2年11月11日】赤羽大臣
が鉄道駅における車椅子利用者の
利便性向上に向けた取り組み等を視察
(国土交通省)



しょうがいふくし かいごほけん
③ 障害福祉・介護保険

STEP えどがわの介助者派遣 (障害者総合支援法・介護保険法内サービス)

かいじょしゃはけん しょうがいしゃそうごうしえんほう かいごほけんほう
1) 介助者派遣 (障害者総合支援法・介護保険法)

りようしゃにんずう 利用者人数 47 人 (うち 3 名介護保険法サービス併用)

はけんじかんすう 派遣時間数 55,878 時間 (うち 1,122.5 時間介護保険法下)

とうろく 登録ヘルパー数 (年間のべ登録)

だんせい 男性 45 人 じよせい 女性 53 人

※性別は自認による性別です。変更歓迎。一緒に考えましょう～。

けいかくそうだん
3) 計画相談

りようしゃにんずう 利用者人数 5 名

りようしゃ しょうかい
<利用者さん紹介 その1>

あべしんじくん
阿部真仁君
(記：曾我元)

「あべくん すてっぷ からの 依頼です。
利用者さん紹介に阿部君を記事に書いてもいいですか？」の問いに「4 度目の
脳出血で入院時は、もう退院できたとしても同じ生活はできない。施設生活が良いのでは？もう 5 度目の手術はできないとお医者さんから言われましたが、今
となっては飛んだり跳ねたりラジバンダ



リー！」と元気よく答えてくれました。
そんな彼と僕は退院したその日に初めて会いました。阿部君の情報は、「曾我
くんと合うと思うよ」と言う井家上さん

ひとこと たいいん みつかまえ きせきてき びょう
の一言、退院三日前に奇跡的に3秒ほ
ど立ち上がることができたことと、もや
もや病と左麻痺や空間無視もあること。

さて、「阿部君に合う介助ってなに？」っ
てところから STEP は関わりはじめま
した。コミュニケーション能力が高い
阿部君。実はアイスの会社で働いて営業マ
ンだったそうで、いつも会話で楽しませ
てくれます。相手を楽しませる嘘ならつ
いてもいいと先輩に習ったとのことでした！

ある日の関係者会議で、今はヘルパー
さんと仲良く過ごしているが、日中の
活動として考えるなら前に行っていた「は
るえ野」に行ってみたいと声が上がりま
した。そこから、外出先での介助はどん
なことが必要かを、実際にいろいろなと
ころに外出してお互い経験をしました。
外出先では、目を輝かせていろいろな思
い出話を聞かせてくれました。その経験
を元に無事にはるえ野に行くことができ

ました。

そ が こんご もくひょう
曾我「今後の目標は？」

あ べ ころな お つ はるえ の い
阿部「コロナが落ち着けば、はるえ野行
こうと思ってる。あと、3年後の
パラリンピック二人羽織に元ちゃ
んとでることかな？笑」

そ が いそが ぶ
曾我「忙しくなるねー！なんの部にす
る？」

あ べ す のう わる きんし
阿部「吸うのは脳に悪くて禁止されてる
からカルタの部にでよ。もやもや
病でも、つまるタイプと切れるタイ
プがいるんだけど、俺は切れちゃ
うタイプだから！笑。今はキレて
ないですよ！笑」

さいご
最後に。

『からだは不自由かもしれないけど、心
は不自由じゃない。人生楽しくなかつた
ら、自分から楽しくする👌』

<利用者さん紹介 その2>

しだい れいこ
司代玲子さん

き くどうとしこ
(記：工藤登志子)

わたし かつどう おこな じりつせいかつ
私たちが活動を行っている「自立生活
センター」は、「どんなにしょうがい おも
必要とする福祉サービスを利用しながら



ちいきしゃかい
ら、地域社会
なか しゅたいてき
の中で主体的
じこじつげん
に自己実現を
はか 図っていくこ
と。—— つ
まい、かいじょ
介助が
ひつよう じゅうど
必要な重度
のしょうがいしゃ
障害者で
あってもみずか

らの意志によって、自らの人生を選択し、決定し、地域の中で社会の一員として主体的に生きていくこと」を障害者の自立ととらえ、そのサポートを障害当事者自身が中心となっていく組織です。

今回私たちはその原点に立ち返る意味も込めて、STEP えどがわの設立当初から関わってくださっている利用者さんへ「自立生活」をテーマにインタビューを行いました。

工藤（以下、K）：司代さん、本日はお時間をとって頂きありがとうございます。

司代さん（以下、S）：いえいえ。

K：司代さんはSTEPの利用者さんの中でも特に長い間関わってくださっている自立生活の大先輩です。今日はそんな大先輩のお話を色々と聞けたらなと思っています。

まずは簡単に自己紹介をお願いします。

S：はい。私は千葉県出身で、小学校3年生の時に江戸川区に瑞江駅ができてこの辺が更地になったので引越してきました。36歳の時に一人暮らしをはじめ、今は62歳です。障害は脳性麻痺です。

親は私が20歳まで生きられないと思ってたから、わりと好きなことをやらせてもらってたかな。

小、中学校は養護学校で高校は一般の高校に通いました。養護学校は授業の他に足を上げたり自転車を漕ぐような訓練もあって、それはそれで楽しかったですよ。ビーズで暖簾を作ったりとかね。高校は一般校の普通科で、階段を5階まで自力で上がるのがしんどかったです。私はアテトーゼと言って首が勝手に動くんですが、それを言われたことはあるけど、いじめとかはなかったです。逆に不良のお姉さんが仲良くしてくれた。普通に会話をしたり怪我をしたら保健室に連れて行ってくれたり。怖そうに見える人の方が優しくかったです。笑

K：一人暮らしはどんなきっかけで始めたんですか？

S：最初親は千葉に帰るって言って。でも私はこっちで仕事してたし、千葉に帰っても友達もいないから。それで単身赴任の5畳ぐらいの狭いアパートで一人暮らしを始めました。

K：どんなお仕事をされてたんですか？

S：フリーランスで介護の仕事。その頃は歩いてたから、私が介護する側だった。知り合いに頼まれて行ってた感じかな。

K：車いすに乗り始めたのはいつぐらいからですか？

S：40歳ぐらい。最初は全く介助を使わなかった。

K：介助を使い始めたのはいつぐらいか

らですか？

S：44 歳ぐらいいかな。仕事を転職して、
介護派遣やらデイサービスをしている
ところでアルバイトをしてただけど、
その人たちに「介助が必要だよな」っ
て。週に 2 回くらい掃除や洗濯など
家事をしてもらっていました。

K：STEP と関わり始めたのはいつぐらい
ですか？

S：48 歳ぐらいで STEP ができて間も
ない頃。もっと前の段階で元 CCM と
いうコミュニティチャレンジの作業所
で今村さんとは出会っていて、STEP
を始めるといのは知っていた。それ
からもう 14 年くらい STEP と関わっ
てます。

K：STEP の介助は他の事業所と比べて
どうですか？

S：最初の頃は老人の方のヘルパーが来
て、あれやっちゃダメ、これやっちゃ
ダメ、というのが多かった。今は自分
の言ったことはやる、自分が指示を出
してやってもらうという感じ。

K：司代さんは料理が上手ですね。ヘル
パーさんに料理を作ってもらう時に
どんな工夫をしていますか？

S：まず包丁を持たせてみて、見てから
指示の出し方を変える。包丁に慣れて
ない人は簡単なものから始めて、あ
とは「ピーラー使ってみたら？」とか、
「家で練習してきて。」とか。笑

K：家で練習してきてって言えるのがすご

いです。私は言えないので。介助を
使っていて大変なことはありますか？

S：うーん。人間関係は色々あるからね。
話を聞かない人とか、優しさなんだろ
うけど、危ないからとやめさせられた
り。でもわからないことを教えてくれ
たり、良いこともあります。

K：ヘルパーさんのここはちょっと、っ
ていうところははっきり言えるタイプ
ですか？

S：でも言いすぎちゃうから、よく事務所
に呼ばれる。笑笑。口下手です。

K：伝え方って難しいですね。笑

S：そう。人間関係は難しいです。

K：歳をとるにつれて少しずつ介助内容
が変わったり時間が増えたりしてると
思いますが、心境の変化はありませ
るか？

S：自分が動けないことがここまで大変な
のかと思いました。トイレとお風呂に
介助が必要になって最初は怖かった
けど、今は慣れました。

K：今はコロナでなかなか出かけられない
けど、コロナが落ち着いたらやってみ
たいことはありますか？

S：普通の暮らしがしたいです。あと、ま
た国立のピアカンに行きたいです。

K：司代さんは長い間ピアカンをやってい
ますよね。ピアカンのどういうところ
が好きですか？

S：最初ピアカンに出会ったのは STEP
の体験講座で。ピアカンって人に話

せないことも話せるし、自分に合っ
てるなあと思いました。コロナの前は
2ヶ月に1回、国立まで通ってたんだ
けど。やっぱり実際に会いたいです。

K: そうですね。司代さんは自立生活
をしていてどんなところが良いなと思
いますか？

S: 自分のことは自分で決められるとこ
ろ。逆に大変なのは、役所との交渉
です。特に私はセルフプランだから、
自分でやらなきゃいけない。時間数
を増やしてくれ～！というのが大変で
す。

K: そういえば司代さんは介護保険も戦
うと言っていましたね。

S: はい。チャレンジしてみようかなと
おもっています。

K: ぜひ頑張ってください！最後に、こ
れから自立しようとしている若い世代
の仲間たちにメッセージをお願いしま
す。

S: 親は年老いていつかなくなります。
別に親と暮らしても良いと思うけ
ど、どっち道いつか自分で決めなきゃ
いけない時が来ます。その時に何も
わかりませんじゃ、何もできなくな
ります。自分のことは自分で決めましょ
う。

K: 気づいたら一時間も喋りっぱなしでし
たね。今日は本当にありがとうございました！

S: ありがとうございました。



ヘルパーさんたちのあそびば

これまで^{かいほう}会報で^{れんさい}連載していたコーナーで、STEP えどがわで^{はたら}働くヘルパーさんを紹介しています。^{ねんじほうこく}年次報告でも^ひ引き続き^{けいさい}掲載していければと思っています。

のはらすずか
野原鈴香さん



こんにちは。
ヘルパーとしてSTEP えどがわにお世話になっていま
す、野原鈴香
です。STEP
えどがわとの
で^あ会いは^{だいがく}大学

^{ねん}1年の^{こうぎ}講義の時^{とき}で、^{しょうがいしゃ}障害者の^{じりつせいかつ}自立生活の
^{じっさい}実際に^{まな}学ぶという^{じゅぎょう}授業に^{とうじしゃ}当事者として^き来
てくださったのがSTEP の^{じぎょうしょ}事業所の方^{かた}々
でした。もともと昔から^{むかし}福祉や^{ふくし}障害者
を^{きょうみ}サポートするボランティアなどに^{きょうみ}興味
があったので、その^{こうぎない}講義内^{かた}で^{せいかつ}語られた
^{とうじしゃ}当事者の方^{かた}の^{せいかつ}生活やそれを^{きょうみ}サポートする
ヘルパーさん^{はなし}の話はとても^{きょうみ}興味深く、^{ほか}他
のどの^{じゅぎょう}授業より^{ねっしん}熱心に^き聞いた^{きおく}記憶があり
ます(笑)。その^{わらい}講義後^{こうぎ}にヘルパー^{ほしゅう}募集

の案内^{あんない}を^ないただいて、これも^{えん}何かの縁^{えん}だ
とヘルパーになることを^{そっけつ}即決しました。

^{さいしよじゅうほう}最初^{はたら}重訪^{はたら}でヘルパーとして^{はたら}働くこと、
^{りようしゃ}利用者さんによって^{かくたんきゅういん}は喀痰吸引^{ひつよう}が必要に
なることを^{りようしん}両親^いに^{とき}言った時は、^{りようしゃ}利用者さん
の^{せいかつ}生活や^{いのち}命の^{せきにん}責任を^せ背負^おえるのかと、
かなり^{はんたい}反対^なされましたが、^{じぶん}自分で^き決めた
ことだからと半ば^{なか}強引^{ごういん}に^{けんしゅう}研修^うを受けて
^{しかく}資格^とを取りました。

^{じっさい}実際に^{はたら}働いて^{かん}みて^{かん}まず^{かん}感じたことは、
^{おな}同じ^{しっかん}疾患^{かいじょうほうほう}でも^{りようしゃ}介助方法^{りようしゃ}はその利用者さん
によって^{また}全く^{ちが}違うんだなということ^{ちが}で
した。^{ひと}人によって^{せいかつ}生活スタイル^{ちが}は違うの
で^{とうぜん}当然^いと言えば^{とうぜん}当然^{いま}なのですが、^{いま}今まで
の^{じぶん}自分^{しょうがい}には^{しゅるい}障害^{しっかんめい}の種類^{かいじょ}や^{かいじょ}疾患名^{かいじょ}で^{かいじょ}介助
も^{おな}同じ^{かんが}だろうと^{ふし}考えて^{ふし}いる^{ふし}節^{ふし}があること
に^{きづ}気付^{はじ}かされました。また^{はじ}初め^{はじ}の^{はじ}ほう^{はじ}は
^{じぶん}自分が^{りようしゃ}利用者さん^{せいかつ}の^{せいかつ}生活を^{かいじょ}サポート「し
て^{かいじょ}あげる」という^{のぞ}スタンス^{のぞ}で^{のぞ}介助^{のぞ}に^{のぞ}臨^{のぞ}ん
で^{はじ}いましたが、^{はじ}初めて^{はじ}利用者さん^{はじ}から「あ
りが^いとう」と^い言^いわれた^いとき^いに^いす^いごく^いす^いごく
^{うれ}嬉^{ひとこと}しくて、^{わたし}むしろ^{ほう}その一言^{ほう}に^{ほう}私^{ほう}の方^{ほう}が
^{ささ}支^{じっかん}えられて^{じっかん}いた^{じっかん}と^{じっかん}実^{じっかん}感^{じっかん}しました。

^{いま}今^{じぶん}まで^{はなばな}自分^{けいれき}には^{けいれき}華々^{けいれき}しい^{けいれき}経^{けいれき}歴^{けいれき}も^{けいれき}な^{けいれき}けれ
ば^{ひと}人^{じまん}に^{とくぎ}自^{とくぎ}慢^{とくぎ}で^{とくぎ}き^{とくぎ}る^{とくぎ}よ^{とくぎ}う^{とくぎ}な^{とくぎ}特^{とくぎ}技^{とくぎ}等^{とくぎ}も^{とくぎ}な^{とくぎ}か^{とくぎ}つ
た^いた^いのですが、^{いま}今^{いま}は^{いま}ヘルパー^{ねんちか}として^{ねんちか}2年^{ねんちか}近^{ねんちか}

はたら いて いる こと が 私 の 自信 にも つな
が っ て いる し、 少 な か ら ず 自 分 の し て い
る こと が 誰 か の 生 活 を 支 え て いる と い う
自 負 が 自 己 肯 定 の 理 由 に も な っ て い ま
す。 介 助 の 仕 事 は 大 変 で す が 自 分 で も
び っ く り す る く ら い 辞 め た い と 思 っ た こ と
は 一 度 も な く て、 こ う し て 続 け ら れ て い
る の は 利 用 者 さ ん や 先 輩 ヘルパー さ ん・
事 務 所 の 方 々 が 皆 さ ん 良 い 方 達 ば か り だ

か ら だ な と 思 っ て い ま す。 い つ も 本 当 に
あ り が と う ご ざ い ま す。

当 初 あ ん な に 反 対 し て い た 母 で す が、
最 近 職 場 で 吸 引 研 修 が あ っ た ら し く 私 に
教 え て く れ と 言 っ て く る ほ ど 今 で は 理 解
を 示 し て く れ る よ う に な り ま し た。

こ れ か ら も 「あ り が と う」 の 一 言 が も ら
え る よ う 頑 張 り た い と 思 い ま す！

たんじたいが
丹治大河さん



は じ
初 め ま し て。
今 回 は 自 分 の
こ と、STEP え
ど が わ で 働 き
は じ
始 め た き っ か
け、2 年 間 働
い て み て の
感 想 な ど を 書
い て い こ う と 思

い ま す。 読 み づ ら い と こ ろ も あ る か と 思
い ま す が、 ど う ぞ ご 容 赦 く だ さ い。

ま ず 自 分 の こ と に つ い て。 生 ま れ
は 1994 年 で、メジャーリーガーの
大谷翔平選手やフィギュアスケートの
羽生結弦選手と同世代です。好きなこ
とは、珈琲豆店や喫茶店を巡ること、
野球観戦、銭湯、ゲーム、読書、歌うこ
となど。歌といっても、カラオケも好き
ですが、主に社会人サークルに所属する

か たち が っ し ょ う つづ
形 で 合 唱 を 続 け て い ま す。

次 に STEP えどがわで働き始めたき
かけについて。いろいろあって新卒で
入った会社を2年弱で辞め、折角だか
ら何でもやってみようと、喫茶店でひと
り営業をしたり銭湯で掃除をしたりウー
○ーイーツで配達をしたり…そんな生活
を半年ほど送ってみて感じたのは、自由
は楽しくて怖いということでした。

何をするのもしないのも自由という楽
しさ、しかし行動の結果は全て自分の
責任であるという怖さを、もう年齢的に
は立派な大人と言われる歳になって初
めて実感したのです。悶々としながら次
の仕事を探していたとき「自立生活セン
ターSTEP えどがわ」の求人が目に止ま
りました。数ある福祉関係の仕事の中で
「自立」という言葉に惹かれたことを憶え
ています。

そうして応募し、採用して頂いてから
2年が経ちました。この2年で自分の

なか おお へん か
中に大きな変化がひとつあります。それは
「自立」に関する考え方です。昔から
ひと たよ にがて ともだち おお
人に頼ることが苦手で友達も多くはなく、
なん じぶん で き りっぱ おとな
何でも自分で出来ることが立派な大人だと、
自立することだと思っていました。
てん き さくねん がつ えいが
転機は今年の4月。映画「インディペン
デントリビング」を見た後、改めて自立
とは何なのか、辞書を引いたり本を読ん
だりしていると、目を引く言葉がありました。

『……実は膨大なものに依存しているの
に、「私は何にも依存していない」と感
じられる状態こそが、“自立”といわれる
状態なのだろうと思います……』

しょうにかい くまがいしんいちろう ことば
小児科医の熊谷晋一郎さんの言葉で
す。まさに胸を打ちました。普段の介助
の仕こと つな
の仕事とも繋がります。そうしてこのと
きから、自分の中の「自立」のハードル
がグッと下がったような気がします。何
でも自分で出来ないといけないわけじゃ
ない、と。

さいご かいじょ はい りようしゃ みな
最後に。介助に入っている利用者の皆
さん、社員の皆さんにはお世話になりっ
ぱなしです。いつもありがとうございます
す。まだまだ未熟者ですがどうぞ今後と
もよろしくお願いいいたします。

インディペンデントリビング

検索



障害者が“自立生活”を選ぶ。

INDEPENDENT LIVING

インディペンデントリビング

映画公開と
新型コロナウイルス
対策について

コロナウイルス対策で
インターネット配信を
継続中!!!

2020年春、東京 ユロスペース ほが全国順次公開！1/11日より、大塚 勇武映画劇場にて先行上映決定！

最新情報
6月24日、10月、オンライン上映会！あと一歩のイベント企画まで
画面の音で楽しめよう！
会場上映会も開催中！
会場上映会も開催中！

映画「インディペンデントリビング」2020.3.14 東京 10
公開が決定しました！
川崎民夫 Ryota Kawasaki
@ryota_1105
オンライン上映会したいなあー。
するしかないか！

2020年8月19日

TUMBLR
FACEBOOK
TWITTER

サイト 1 1 1

ようせいけんしゅう
④ 養成研修

じゅうどほうもんかいごじゅうぎようしゃようせいけんしゅう しょうがいしゃそうごうしえんほう
1) 重度訪問介護従業者養成研修（障害者総合支援法）

じっしかいすう かい 5 回 6/27-28、8/8-9、10/10-11、
実施回数 12/5-6、3/11-25

じゅうこうしゃすう のべ 23 人
受講者数

かくたんきゅういんなどだいさんごうけんしゅう しゃかいふくしし およ かいごふくししほう
2) 喀痰吸引等第三号研修（社会福祉士 及び介護福祉士法）

きほんけんしゅうじっしかいすう かい 9 回 7/11、7/26、8/5、8/30、11/29、
基本研修実施回数 12/19、1/23、2/2、3/13

じゅうこうしゃすう のべ 27 人
受講者数

※リモート受講含む

じゅうどほうもんかいごじゅうぎようしゃようせいけんしゅう
重度訪問介護従業者養成研修
(記：中曽根知明)

すてっふ かいじょげんば
STEP えどがわでは、介助現場
で 働 く た め の 資 格 講 習
「じゅうどほうもんかいごじゅうぎようしゃこうしゅう
重度訪問介護従業者講習」を
じゅうこうきぼうしゃ ばあい きほんてき いっかげつ
受講希望者がいる場合は基本的に1ヶ月
に一回開催していますが、2020年度
は4月早々にコロナの為緊急事態宣言が
はつれい すう げっかんかいさい み あ
発令され数か月間開催を見合わせていま
した。

ごきんきゅうじたい かいじょ じゅうこうきぼうしゃ
その後緊急事態が解除され受講希望者
もいましたので感染対策を行ったうえで

こうしゅうかい さいかい かんせんたいさく
講習会を再開しました。感染対策として
は国の介護事業所などに実施した「新型
コロナウイルス感染症緊急包括支援事業」
の助成金を活用し、密を防ぐ為に折
り畳み式テーブルやアクリルパネル、
くうきせいじようき こうにゅう で き かぎ
空気清浄機など購入し出来る限りの
かんせんたいさく こう こうしゅうかい かいさい
感染対策を講じ講習会を開催しました。
いま 今のところクラスター感染など起こる
ことなく出来ていますが、これからも
かんせんたいさく き ゆる こうしゅうかい おこな
感染対策に気を緩めず講習会を行ってい
きたいと思ひます。

03

しんかいいんせいど
新会員制度「ダンサなくし隊」
たい

STEP えどがわの会員制度をリニューアルし、「ダンサなくし隊」として新たにスタートすることになりました。

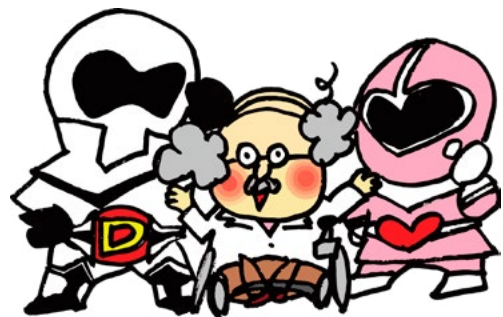
STEP えどがわでは障害者に関わるいろいろな活動を行っています。例えばその中の一つに、MMIプロジェクトというのがあります。MMIとは、「瑞江の街を、めちやめちや、インクルーシブな街へ」の略です。誰もが住みやすい街へを目指したこの活動として、昨年にはクラウドファンディングを利用して行いました。これはSTEP えどがわ近辺のお店に、段差を解消するためのスロープや、聴覚障害者等とのコミュニケーションを補助するための筆談ボードを、置かせて頂く活動です。入口に段差があり、車椅子やベビーカーではちょっと利用しにくかったお店やコミュニケーションが重要なお店などでは、利用しやすくなったのではと思っています。

少しずつではありますが、こういった活動を確実に進めていき、重度の障害があっても安心して地域で暮らしていけるように、誰もが住みやすい街へ近づけていけたらいいなと思っています。

このような活動をはじめ、STEP えどがわ全体の活動を応援して下さる方を募集しています。問合せも大歓迎です。よろしくお願いいたします。

stepえどがわ 問い合わせ

検索





選べるサポート形態



マンスリーサポーター



マンスリーサポーターとは、毎月定額を寄付して頂くことで活動をご支援いただく STEP えどがわの新会員制度です。



正会員、賛助会員



毎年定額を寄付して頂くことで、活動をご支援いただく会員制度です。正会員には総会での議決権があり、STEP えどがわの運営等にも積極的な関与をご希望される方が対象です。



ご寄付



ご都合のよい時に、ご自由な金額・回数でご寄付いただけます。いただたご寄付は、誰もが住みやすいインクルーシブなまちづくりに有効に活用させていただきます。

詳しくはSTEPえどがわのホームページをチェックしてください♪

「ダンスなくし隊、退院募集!!」

<http://www.step-edogawa.com/dansa-nakushitai/>



へんしゅう はっこう
編集・発行

とくていひえいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人

じりつせいかつ すてっぷ
自立生活センター STEP えどがわ

〒133-0065 とうきょうとえどがわくみなみしのざきまち
東京都江戸川区南篠崎町 3-9-7

でんわ TEL 03-3676-7422 ふあつくす FAX 03-3676-7425

う え ぶ
WEB <http://www.step-edogawa.com/>

めーる
Mail main@step-edogawa.com